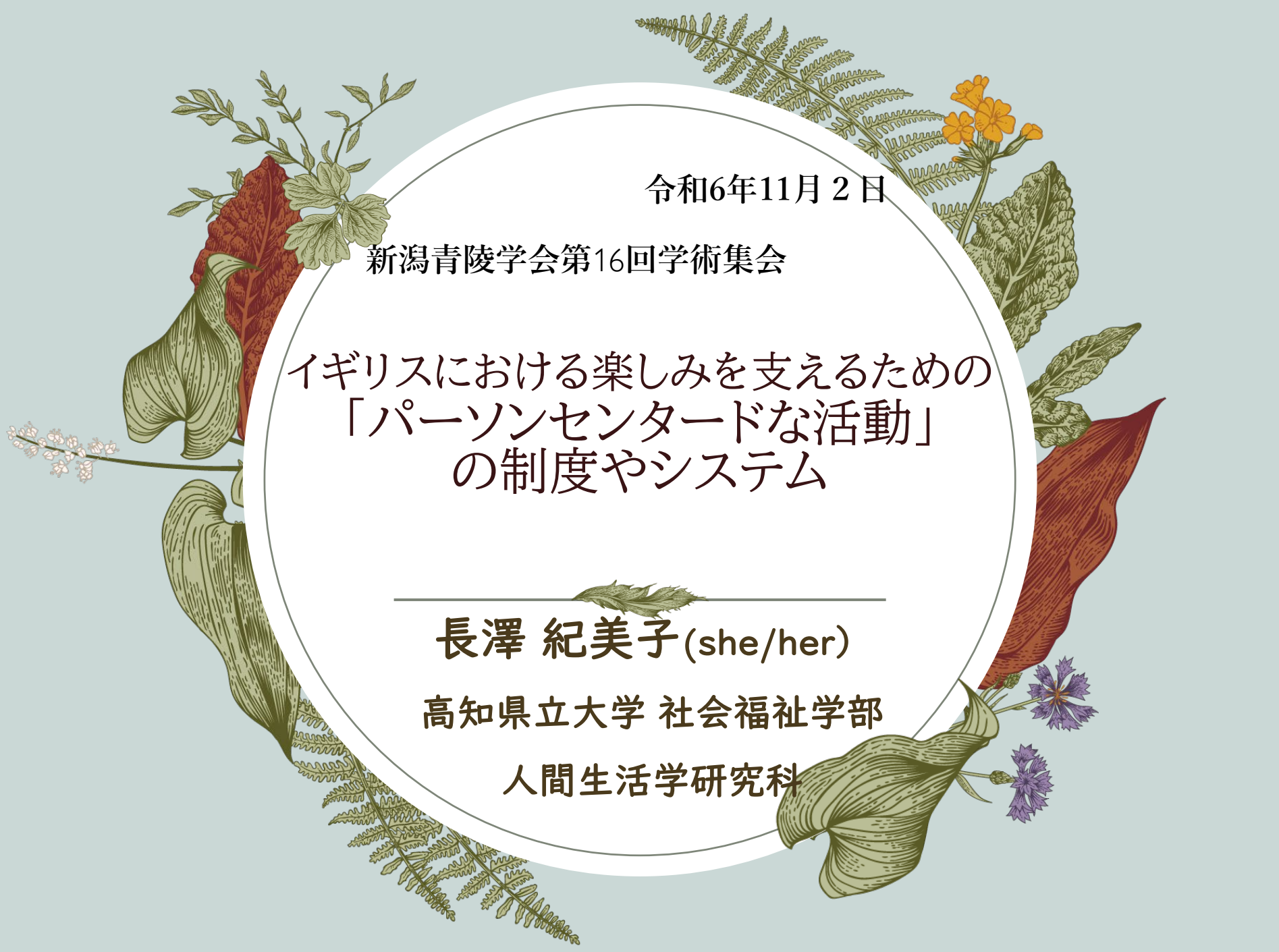




令和6年11月2日

新潟青陵学会第16回学術集会

イギリスにおける楽しみを支えるための
「パーソンセンタードな活動」
の制度やシステム

長澤 紀美子 (she/her)

高知県立大学 社会福祉学部

人間生活学研究科



その人を知ること

その人がどのような病気にかかっているかを知ることよりも、どのような人が病気にかかっているかを知ることの方が大切である。

(ヒポクラテス)

報告内容

1. はじめに:「パターナリズム」の永続化
(「障害者権利条約の対日審査 総括所見」より)
2. 「その人が中心」:イギリス* における「パーソンセンタード」なケアとは？
3. 「パーソンセンタード」なケアを支えるしくみ
4. ソーシャルワーカーにとって大切なこと:「楽しむ」権利の保障

*本報告ではUKを構成する「イングランド」(England)を指す。



“Nothing about us without us”

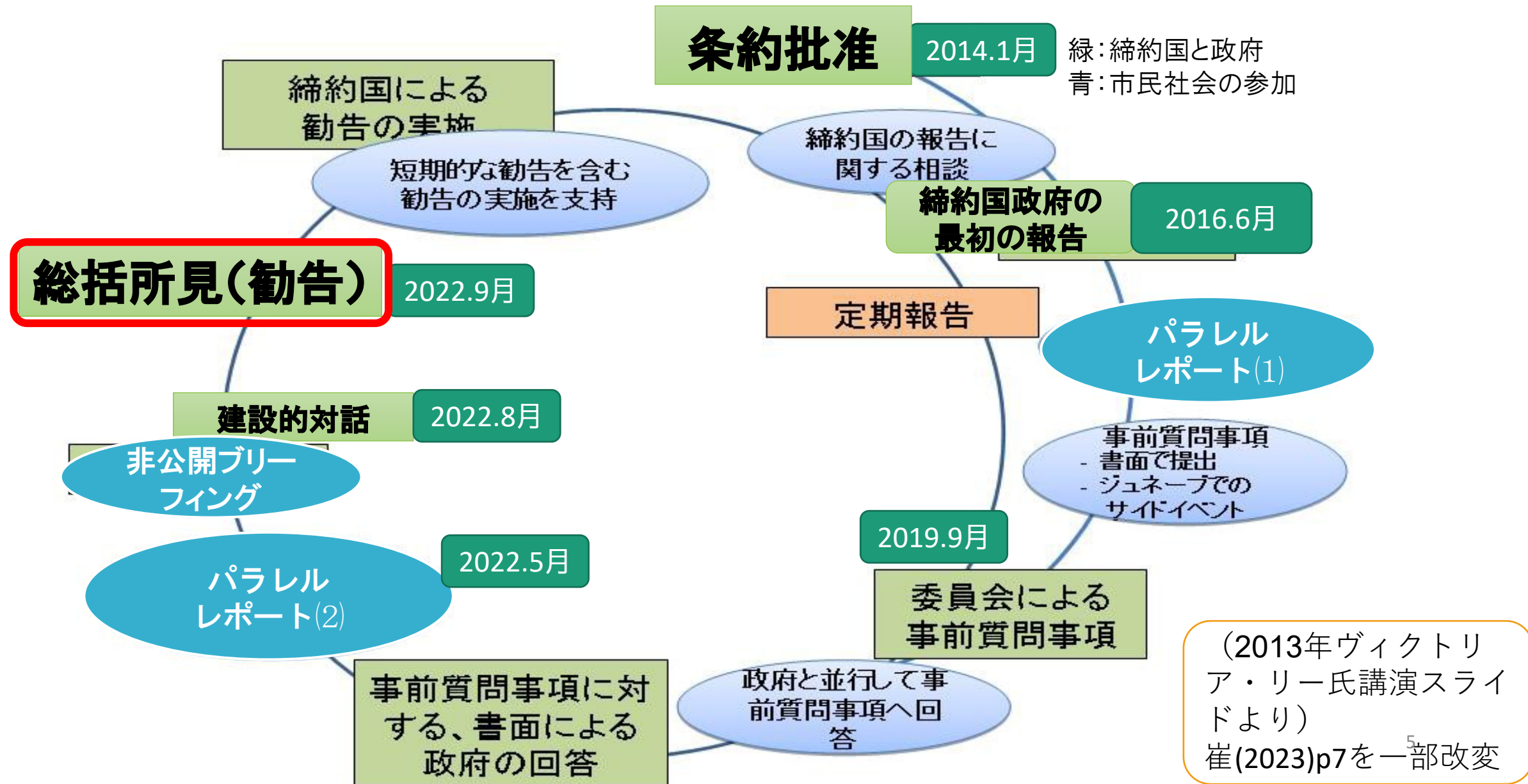


1. はじめに 「パターンナリズム」の永続化

(「障害者権利条約の対日審査 総括所見」より)



障害者団体が報告プロセスに参加する機会



総括所見での指摘

－日本の障害者福祉政策の課題－



(1) 人権モデルと調和していない、温情（父権）主義的 (paternalist) アプローチを永続化させている。

- 保護の対象であり、権利の主体ではない。
- 医学モデルが主流

(2) 「分離・隔離（⇒排除）」的な政策・処遇を廃止すべき

ex. 特別支援教育、福祉的就労、施設入所・長期入院（精神科医療）

パターンリズム

paternalism

「父権的温情主義」

- 弱い立場の人（子どもや障害をもつ人、高齢者など）を自己決定できる1人の人間としてではなく、「保護すべき存在」として扱う考え方。
- 相手に無力感を抱かせたり、相手の尊厳を傷つけているが、保護している側はそれに気づかず、善意で介入している場合がある。

障害の「社会モデル」の視点

医学モデル／個人モデル

「個人の心身機能(の障害)に(不利益や制限の)原因がある」



本人を変える
(医療)

社会モデル／人権モデル

「障害のない人を前提に設計された社会に(不利益や制限の)原因がある」



社会・制度を
変える



どうしたら
パターンリズム
から、
権利の主体へ？



「その人が中心」：
「パーソンセンタード」なケア・
アプローチ



2. 「その人が中心」：イギリスにおける 「パーソンセンタード」なケアとは？



「その人が中心」「パーソンセンタード」とは



- 歴史:1960年代初頭 カール・ロジャースによって提唱
共感(empathy): 専門家が判断を保留し利用者の視点を尊重する。
- 定義:「その人のニーズに合ったケアを計画し、創り出し、モニターするために利用者を対等なパートナーとみなす考え方・やり方(活動・関係性)。
利用者や家族を意思決定の中心に置き、エキスパートとして捉え、専門職と共に協働して最も良い成果を得られるようにすることを目指す。」
「単にその人が望むものを与えたり、情報を提供したりすることではなく、その人の願望や価値観、家族の状況、社会的環境やライフスタイルを考慮する」
「思いやりを持ち、その人の視点から物事を捉え、敬意を払うことが重要」
「その人に対して何かをするのではなく、その人とともにすること」

事例：退院・就労支援の支援者



買い物同行、処方箋受け取り／地域の団体に紹介しましょうか？

あなたにできることは
何もない。
迷惑をかけたくない。

今、あなたに何かできるとしたら、何ができるでしょうか？

妻の墓に花を持って
行ってくれ



3.「パーソンセンタード」なケアを支えるしくみ

①根拠法、②人材育成、③ケアの質の評価





3.「パーソンセンタード」なケアを支えるしくみ

①根拠法



2014ケア法 第Ⅰ部 1

自治体の義務「ウェルビーイングの促進」

- 尊重して扱われること(尊厳)。
- 身体的、精神的健康、感情的なニーズが考慮されること。
- 虐待やネグレクトから守られること。
- 日常生活での決定(利用するケアやサポート)を管理できること。
- 仕事に就く、教育や訓練を受ける、レクリエーション活動に参画する機会が確保されること。
- 社会的および経済的なウェルビーイング。
- 家庭、家族内及び個人的な関係。
- 生活環境の適切さ。
- 社会に貢献できること。

2014ケア法

「個人にとって何が最善か」

「どのようにニーズを満たすべきか」

その人が中心

- 自らのニーズを最もよく理解できるのは本人であるという前提に立ち、支援者は思い込みをしない。
- ニーズをどのように満たすかについて、本人の意見、心情、願い、信念を考慮する。
- 自身に関するすべての決定に、本人が完全に参加する。
- ニーズを先延ばしにしたり、減少させることの重要性を認識する。
- 思い込みではなく、実際の状況に基づいて決定する。
- 家族や友人を考慮する(孤立した個人として見なさない)。
- どうしても必要でないかぎり、権利や行動の自由を制限しない。制限が必要な場合は、最も制限の少ない方法を取る。

事業者向けガイダンス「パーソンセンタードケア」

- サービス利用者をケア、治療、支援の中心に置き、その人にとって何が重要であるかを本人自身の観点に基づいて、すべてのことが行われることを保証する。
- サービス提供者は、それがどのようなものであれ、利用者が、適切でニーズを満たし、個人的な好みを反映した、本人中心のケアと治療を受けられるよう、合理的に実行可能なあらゆることを行わなければならない。
- サービスを利用する人や合法的に代行する人は、希望する限り、ニーズと好みのアセスメントに関与しなければならない。提供者は、利用者が利用可能な選択肢を確実に理解できるよう、必要な時に適切な情報と支援を与えるべきである。
- 情緒的、社会的、文化的、宗教的、スピリチュアルを含むあらゆるニーズがアセスメントされるべきである。

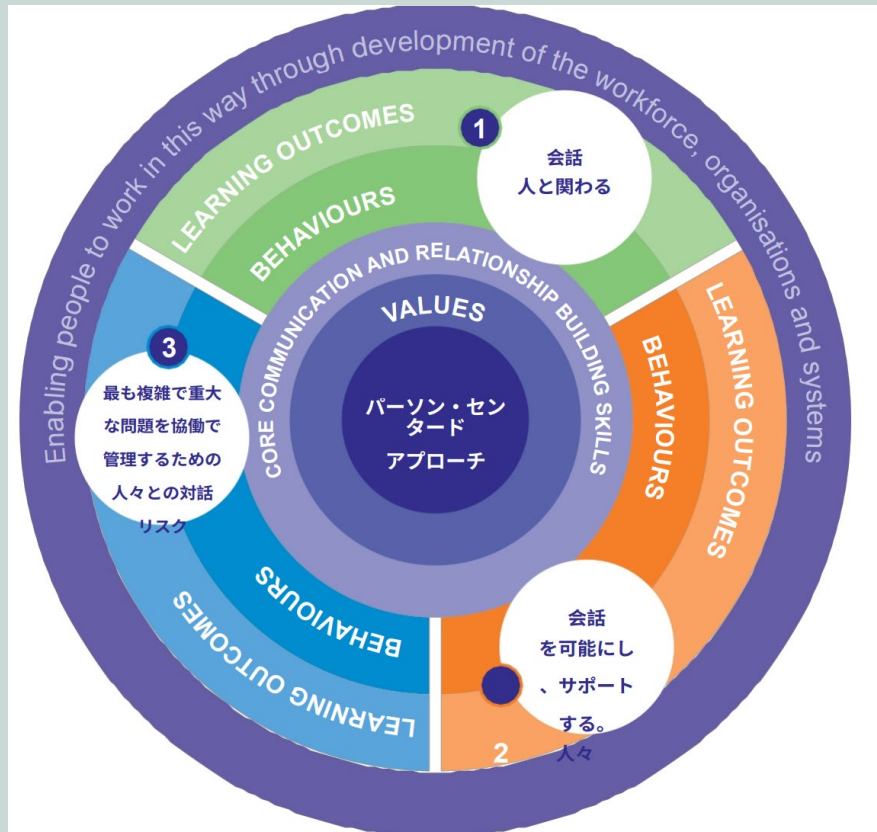


3.「パーソンセンタード」なケアを支えるしくみ

②人材育成



「パーソンセンタード」なアプローチ ができる人材を育てる



1. 価値観

2. 中核となるコミュニケーションと
関係性構築スキル

ステップ① 人と関わる対話

ステップ② 人が自分らしく生きられるようにサポートする対話

ステップ③ 最も複雑でリスクが高い問題を共同で管理するための対話

2.中核となるコミュニケーションと関係性構築スキル

Do & Don't

- 1) こんにちは、私の名前は...」と自己紹介する。
- 2) 本当に私の話に耳を傾けてくれている。
- 3) 自分自身や個人的な状況、自分自身や地域社会にとって何が重要かを探り、理解するために、オープンな質問をする。
- 4) 私が何とかするためにすでにやっていることを認め、私が経験していることは理解できるものだと安心させてくれる。
- 5) 私を批判しない。
- 6) 他に話したいことがないか確認する
- 7) 私たちがどのように会話を導き、続けるかについて、私が対等なパートナーになる機会を与えてくれる。
- 8) 私や私の介護者とともに、互いに信頼し合えるように仕事をする。
- 9) 会話に使える時間の見当を細やかに配慮してくれる。

- 1) オープンな質問をし、その情報を私たちの会話やあなたのサポートを形成するために使用しない。
- 2) 会話中、他のことに気を取られ、気が散っている。
- 3) 座ったり立ったりして、私の話を聞いていない、あるいは私の話に腹を立てていることを示すような声の出し方をする。
- 4) 私たちのどちらかが、尋ねたり確認したりすることなく、お互いを理解したと仮定する。
- 5) 邪魔をする。
- 6) 私に対して「力」や優位性を得るために、体の姿勢、声、位置取りを利用する。
- 7) 私に尋ねることなく、あるいはその方が「楽」だからという理由で、介護者やパートナーとのコミュニケーションを優先する。
- 8) 会話に使える時間を教えてくれず、私が期待する前に、何の前触れもなく突然会話を終わらせる。



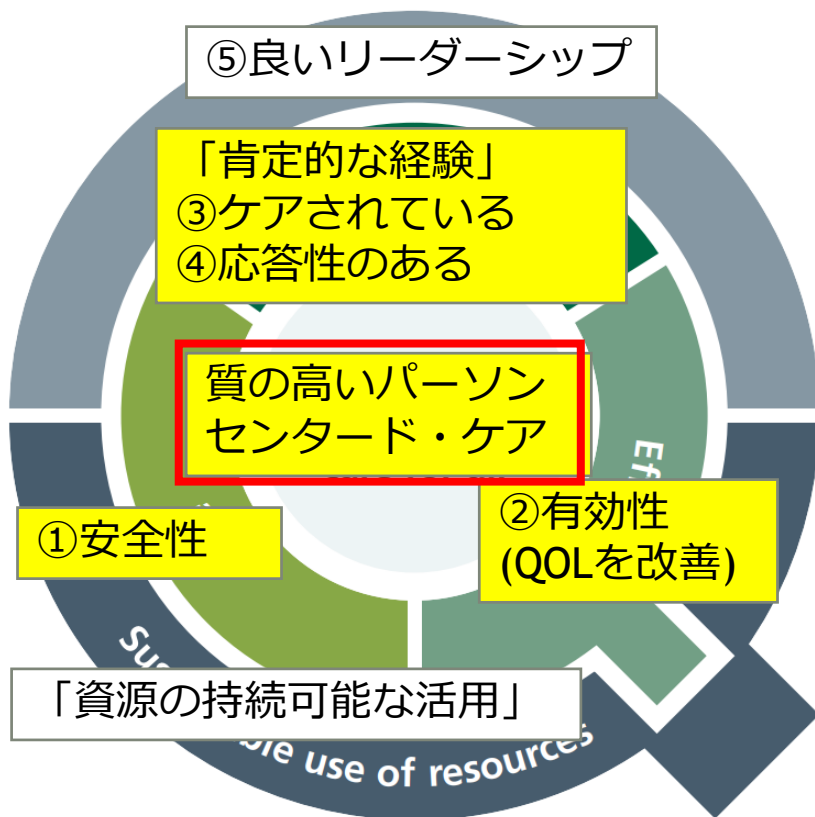
3.「パーソンセンタード」なケアを支えるしくみ

③ケアの質の評価



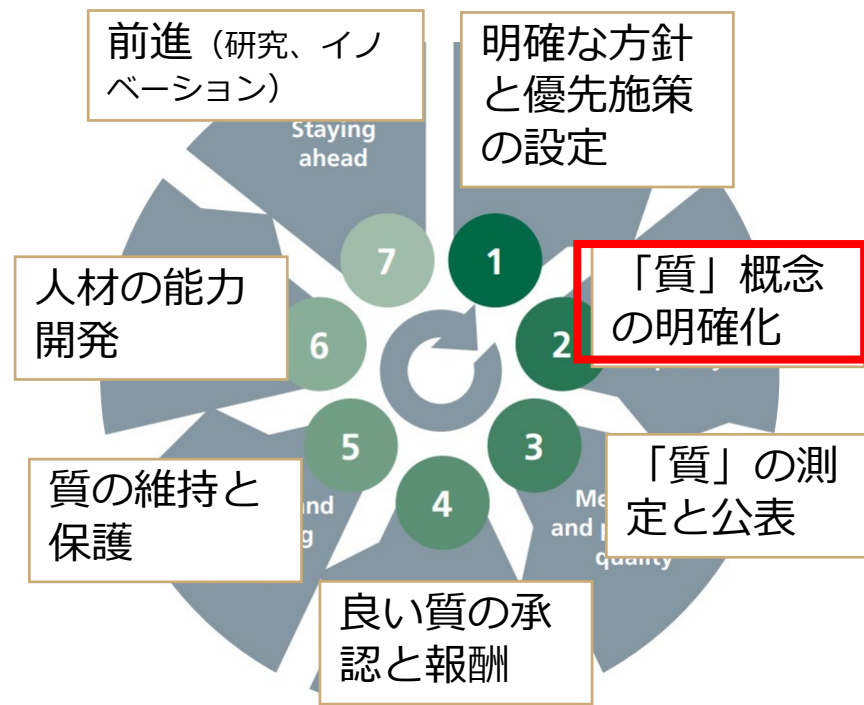
ケアの「質」とは？ 概念を関係者で共有

▶ ケアの「質」とは？明確化



保健省, NHS (国民健康サービス), CQC (ケア規制監督庁), 自治体、介護事業者、介護者団体、当事者団体等、ケアに関わる官民の多様な団体で合意形成

▶ ケアの「質」改善の7ステップ



「5つの主要質問」(監査確認項目) (key lines of enquiry, KLOEs)

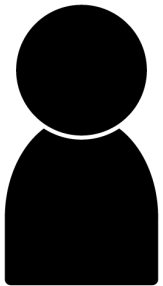
質問	該当するガイダンス
①安全か	虐待からの保護／リスクマネジメント／適切な職員配置／投薬管理／感染管理／うまく行っていないことから学ぶ
②効果的か	ニーズアセスメントと根拠に基づいた治療／職員のスキルと知識／栄養と水分摂取／職員とチームの連携／健康な生活のための支援／アクセス可能な施設設備
③ケアされているか	ケアや治療への同意／親切さ、尊敬、共感／ケアに関する意思決定に関与させる／プライバシーと尊厳
④応答性があるか	パーソン・センタード・ケア／懸念と苦情／終末期ケア
⑤良いリーダーシップがあるか	ビジョンと戦略／ガバナンスとマネジメント／関与／学習、改善、革新／パートナーシップによる協働

質のステイトメント (自治体評価)

I ステイトメント

わたしは

- 自分が望む生活を送り、自分にとって大切なことをできる限り自立して行うことができる。
- 敬意と尊厳を持って接してもらっている。
- 生活の中で私を気に掛けてくれる人(家族、友人、地域住民など)がいる。
- 自分のコミュニティにできる貢献をすることで評価されている。



パーソンセンタードケア

TLAP 2018

We ステイトメント
わたしたちは

- 公的な制度や既存の処遇に解決策を限定せず、人々が人生から何を望み、それを可能にするケア、サポート、住まいを見出すために人々と対話を重ねる。
- 人々がコミュニティに包摂され、その貢献が評価されると感じられるような関わり方を模索している。
- 人々が暮らす場所、一緒に暮らしている人、得られるサポートがウェルビーイングにとって重要で互いに関連していることを知っている。あらゆる面が当事者にとって適切であるかどうかを確認するために対話を行う。







4. ソーシャルワーカーにとって大切なこと： 「楽しむ」権利の保障



医療福祉実践における パーソンセンタードの価値

価値 (Value)

個別性

権利

尊厳

敬意

プライ
バシー

選択

自立

パートナ
シップ

エンパワメント
自信・声・力

IFSW ソーシャルワーク専門職 のグローバル定義 (2014)

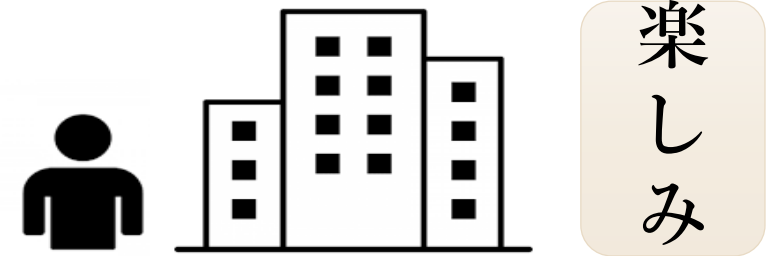
■ウェルビーイング

人々が主体的に生活課題に取り組みウェルビーイングを高められるよう人々に関わりと共に、変革に向けて人々と共に構造に働きかける。

■エンパワメント

構造的・個人的な障壁の問題に取り組むこと
→エンパワメントと解放を目指す実践の中核

社会モデル／人権モデル
「障害のない人を前提に設計された社会」の障壁を取り除く



ウェルビーイングに影響を与える重要な決定に参加する権利

“Nothing about us without us”

パーソンセンタード

その人らしくいられること＝権利
enable people



人を**尊重**するとは？

「自分らしさ」＝「その人が自由であること」

「その人の本質が妨げられないでいる状態」

「その人の本質に従って力が発揮されていること」

(本山智敬 2023)

その人の本質は妨げられていないか？
障壁を取り除くためにいまできることはなにか？



ご清聴ありがとうございました。

Thank you for your attention.



ご意見・ご質問は
nagasawa@cc.u-kochi.ac.jp

参考文献

- 阿久澤麻理子「人権教育再考－権利を学ぶこと・共同性を回復すること」石埼・遠藤編著『沈黙する人権』法律文化社 2012
- Department of Health and Social Care, Adult Social Care: Quality Matters overview, 2017
- Disability Rights UK, Your Guide To the Care Act; What you need to know about social care in England, 2017
- 藤井克徳・白沢仁・越野和之・藺部英夫「【座談会】総括所見の焦点と権利保障運動vの課題」『障害者問題研究』51巻2号, 2023, pp.106-117
- 飯野由里子・星加良司・西倉実季「社会を扱う新たなモード」生活書院 2022
- Health Education England, Skills for Health, Skill for Care, Person-Centred Approaches: Empowering people in their lives and communities to enable an upgrade in prevention, wellbeing, health, care and support; A core skills education and training framework, 2017
- 本山智敬「パーソンセンタードケアとなにか」本山智敬・永野浩二・村山正治『パーソンセンタード・アプローチとオープンダイアログ』遠見書房 2023
- 崔栄繁「条約とは？総括所見とは？」日日本障害フォーラム(JDF)『みんな、知っておこう！ 障害者権利条約 総括所見のポイント解説』2023
- Think Local Act Personal (TLAP), Making it real: how to do personalised care and support. 2018